

校長室の小窓から・・・

—No.5— 令和7年5月24日(土) 金光八尾中学校高等学校 校長 松井 祥一

晴れたらいいね



日曜日の夜になると、遠くから和太鼓の音が聞こえてきます。公民館に集まって、練習をされているようです。「ドンドン、ドンドコ」という響きは、雷を連想させる勢いのある音です。調べてみると、やはり和太鼓の音は雷（神鳴り）に模され、神様に願いを届けるとされていたようです。ですから和太鼓は単なる楽器としてだけでなく、神様を迎える神具として用いられてきたのです。

近所には法隆寺をはじめとする神社仏閣があり、お祭りも多い地域です。神輿のお渡りや太鼓台の担ぎ合いの日には、静かな町がとても賑やかになります。日本には「ハレとケ」という言葉があります。「ハレ」は「晴れの日」「晴れ舞台」といった非日常、対して、単調な繰り返しの日常を「ケ」と言います。

岸和田に住んでいた大学時代の友人は、普段とても物静かなのですが、だんじり祭りが近づくとソワソワし、当日は授業を休むのでした。地元の学校は休校で、大人も子どもも祭り一色だと彼から聞いたことがあります。お祭りというのは、人々が日常の「ケ」のストレスや悩みを忘れ、明日への活力を得る「ハレ」の行事です。余談ですが、ヘブライ語で「神を賛美せよ」という意味で「ハレルヤ」という言葉がありますが、日本語の「ハレ」と似ていることに興味深く思います。

「晴れて大学生になる」という言い方がありますが、これまで注目を集めることなく、ひっそりと暮らしていたが、この度、ようやくお日様が照って、誰に遠慮することなく、大学生を名乗ることができたということです。このように、良い結果の時に「晴れて〇〇」と言うのですが、「長年の苦勞の末、努力が実った」という思いを感じずにはおれません。同じく、「晴れの日」「晴れ舞台」という言葉にも、これまでの苦勞を乗り越えた人々の思いが込められていると感じます。言葉には辞書に載っている意味だけでなく、人々の生活や思いが込められています。それが「言霊（ことだま）」と言われる所以なのでしょう。

今年度から「体育大会」改め、「体育祭」となります。競技の勝ち負けだけでなく、日頃の思いを込めて取り組むことで、生徒の皆さんにとって「晴れ舞台」となるよう、心より願っています。

